

もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

TAKE
FREE

Vol.14
2014.12.05

発行/盛岡市

かすかな、だけど、
たしかな光

[特集]

今、私たちができること

改めて、復興とは、支援とは、なんだろう？

インタビュー

柳田久美子 (シンガーソングライター)

発行日/2014年12月5日
企画・編集/株式会社ラデオもりおか
〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21
TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153
デザイン/冬部幸治(創造集団 志庵)
印刷/山口北州印刷株式会社
Special Thanks/取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
※掲載されている情報は平成26年11月20日現在のものです。発行後の情報変更につきましてはご了承ください。
※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業によって発行されています。※無断転載禁止

Facebookでも
情報を発信中!



かすかな、だけど、 たしかな光

その光には
明るく輝く力はないかもしれない
だけど、いつもかすかにそこにある
あなたから見えるところに

暗がりを照らす常夜灯や
海原で見上げる北極星のように
あなたが必要なとき
明日を示す目印でいられるように

強い輝きで照らすことはできない
けれども

深い闇を作り出すこともしない
かすかな、だけど、たしかな光。

あまりに弱い光かもしれない
その先までを導く力もない
あなたは、気づいていないかもしれない
それでも。

夜明けの前触れのように
明日の輪郭をぼんやり照らす
かすかな、だけど、たしかな光は
いつもかすかにそこにある
あなたから見えるところに



もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

vol.14 2014.12.05

02 かすかな、だけど、たしかな光

[特集]

04 **今、私たちができること**

改めて、復興とは、支援とは、なんだろう？

10 三陸うまいもん紀行 かき小屋編

12 「いわて復興ウォッチャー調査」で読み解く
岩手の復興

14 インタビュー **柳田久美子** (シンガーソングライター)

18 絆・デザイン魅力創造事業

21 Re:stitch ~読者のみなさんから~

23 プレゼント

今、私たちが できること



改めて、 復興とは、支援とは、 なんだろう？

震災からもうすぐ4年、
支援のニーズも変化している今、
改めて「復興支援」について考えてみませんか。

写真／浸水した区域の盛土工事が進む大槌町内（2014年10月撮影）

「とにかく人手が必要」から
「専門的なサポート」へ
変化する支援のあり方

東日本大震災の発生からもうすぐ4年。がれきが片付いたまちには仮設の建物が立ち並び、かさ上げのための土の山がひとつ、またひとつ増えていく……。被災地の姿は、刻々と変化を続けています。

求められる支援も同じ。「とにかく物資が、人手が必要」という時期は過ぎ、「地域や個人の状況に合わせた専門的なサポート」へと支援ニーズがシフトしつつある現在、そのニーズに応えられる人は限定的です。被災地のまちなかでボランティアの姿をみかける機会も少なくなりました。

ボランティアニーズが
少なくなつた今、

「復興支援」ってなんだろう？

今、復興支援の取り組みとして行

われていることのひとつが、被災者を対象とする生活相談やメンタルヘルスケア。

例えば、仕事が決まらず生活が困窮している、震災前とは違う環境になじめず孤立している、いろんな不安でお酒に頼ってしまう……。こういった経済的、精神的な問題は個人的な事情を含むため潜在化しやすく、また時間が経つごとに深刻な「負の連鎖」に陥るケースも少なくありません。

今回の特集では、これらの課題に長期的、継続的に寄り添い、被災者の自立支援と心のケアに取り組むふたつの団体を紹介。「誰でもできる支援」から「専門的なサポート」へと復興支援のニーズがシフトした今、私たちができること、考えるべきことは何かを考えてみたいと思います。



NPO法人「心の架け橋いわて」が開催している「災害復興メンタルヘルス研修」にて

「うずくまっている」 人たちに 歩き出すきっかけを

「もりおか復興支援センター」の
見守り世帯支援



社会的孤立と貧困は、 切り離すことができない問題

一般社団法人「SAVE IWATE」が盛岡市の委託事業として運営している「もりおか復興支援センター」では、内陸に避難、または移り住んだ被災者を主な対象とする支援を行っています。

その活動のひとつが、内陸避難世帯への「見守り」。戸別訪問やサロンの開催などを通して、生活の不安や悩みをくみ取り、それを取り除くことができるようサポート。その中でも経済的に困窮している世帯に対しては、食料品など最低限の生活物資を支援しています。

「社会的な孤立と貧困は、切り離しては考えられない問題。周囲に相談できる人、『困っているサイン』に気づいてあげられる人がいない人ほど、深刻な困窮状態に陥っているケースが少なくありません」
そう話してくれたのは、生活支援

するもの。しかし阿部さんは「将来的には、被災した、しないにとらわれない支援、困っている人を助けあう関係の構築が必要」と考えていると言います。

「貧困と社会的孤立は深く関係している、という話をしましたが、困った時、お互いに『助けて』と声を出すことができる関係ができれば、孤立することもなくなっていくと思うんです」

「貧困と社会的孤立」は、被災地や被災者に限った課題ではありません。私たちの地域が今抱えている、または将来誰の身にも起こりうる課題でもあります。

誰かが困っているとき、また自分が誰かの助けを必要としたとき、お互いに「見守り」あい、支えあう社会にしていくなめにはどうしたらいいか。そんな視点で復興支援を考えると、復興支援や被災者支援が、決して「自分にはできない」「人ご

相談員の阿部知幸さん。以前、盛岡市内に避難している世帯へ訪問調査を実施したとき、「生活に困ったときに頼み事をできる人がいるか？ いないか？」という質問に「いない」と答えたのは全体のおよそ25%。しかし、食料支援を受けている世帯限定で同じ質問の統計を取ると「いない」と答えた世帯は48%以上まで増える結果が出たとのこと。「孤立させないこと」が、支援の大きなテーマのひとつだといふことがわかります。

抱えている課題は「震災後」に 生まれたものとは限らない

また、支援を必要とする困窮者は、さまざまな因子が複雑に絡み合っていることが多く「被災者をひとくりり捉えないこと」が必要だと感じている、と阿部さん。

「現在支援を必要としている人のなかには、震災前から経済的に困窮していたり、コミュニケーションがとれないことに気づくことができるのではないのでしょうか。」

今、私たちができること

困った時に支えあう 地域をつくる

もりおか復興支援センターが取り組んでいる「見守り」は、内陸へ避難した被災者を対象に行ってい

うまく取れないなどの生きづらさ、社会的疎外感といった課題を抱えていた人も多い。それが震災によってさらに深刻化した、というケースも少なくありません。そうなる、津波で家や仕事を失ったという震災特有の課題だけでなく、もともと『社会的課題』とも向き合っていないかなければいけません。仕事や住むところが見つかればいい、ということではないんです

「被災者」をひとくくりにした、平等で画一的な支援では、適切な対応ができない。しかし、個人の状況に応じたサポートをするためには、人材や資金の確保も含めた長期的、継続的な体制づくりが必要だと話します。



見守り支援のほか、サロンの運営、さまざまな困りごとの相談、情報提供なども行っている。

もりおか復興支援センター
盛岡市内丸3-46 TEL 019-654-3521 <http://morioka-fukkou.com/>

メンタルヘルスケア 過疎の地が 「心の免疫力」を つけるために

「心の架け橋いわて」の活動と人材育成

「つながり」の再生が求められる
地域の「心のケア」課題に、
多職種で取り組む

NPO法人「心の架け橋いわて」は、岩手県大槌町を中心に、メンタルヘルスケア活動を行うNPO。精神科医、看護師、PSW（精神保健福祉士）、心理士など多職種のメンバーが、毎週金・土に交代で現地に入り活動を行うほか、地域における支援者への支援・育成など、「長期的視点」での支援活動にも取り組んでいます。

「私たちは震災直後から活動を開始し、1年後に団体を設立しました。活動をする中でわかったのは、地域メンタルヘルスの問題は、短期的な支援で解決できるものではないこと。分断された地縁、血縁などの『つながり』の再生が必要で、それは精神医療関係者のみで解決することは難しい、ということでした」

そう話すのは、理事長の鈴木満さ



「地域の力」で心のケアを
「出前型」から「地域自立型」への
移行を目指す人材育成

現在のメンバーは、ほとんどが関東圏在住者。毎週末交代で大槌に入り、活動していますが、いつまでも続けていくことは、人材の確保、財政面で難しい。メンタルヘルスケアを地域に根付かせること、地域の力で心のケアができるような土台づくりもしていきたい、と考えています。

「今ある課題に取り組みだけでなく、予防的な健康教育の強化、メンタルヘルスに関する知識や予防方法の普及啓発も重要。外部の人間による『出前型』にばかり頼るのではなく、地域の人材を育成し、自立を促す『地域自立型』支援への移行が不可欠です」

そのため、心の架け橋いわてでは、2014年度から「災害復興メンタルヘルス研修」を実施。支援活動の担い手を段階的に現地（県内）

在住者に移行し、地域全体のメンタルヘルスケア能力を向上することに近づきたい、と話します。

「専門職でなくとも、ある程度の知識や対処法を心得ていれば、自身の心のケアができたり、周囲の人の変化に気づいてあげることでもできる。深刻な状態になる前に相談窓口につなげることもできます。そうして地域全体の心の免疫力を上げることができれば、長期的、継続的なサポートもしやすくなりますし、何よりも復興に向けて前進するための力になると思っています」

研修受講者の多くはシニア世代。「実は当初、心理系を学んでいる学生を想定していたんです。でも今の受講者さんはとても熱心で、シニアの力や熱意というものを再評価しているところですよ」と話す鈴木さん。

メンタルヘルスのような「専門的なサポート」の分野でも、非専門職の力が求められていることがありません。支援ニーズが変わったから「私

ん。そのため、精神医療関係者だけではないIT関係者、音楽家、落語家などを含めた「プロボノ」*活動を実施。地域の生活支援相談員と一緒に戸別訪問をしたり、「健康講座」などと組み合わせたサロンを開催するなど、さまざまな活動をしてきました。当初、心のケアは「敷居が高い」「個人的なことは話しにくい」と敬遠されがちでしたが、少しずつ地域に溶け込み、信頼関係が生まれてきている、と鈴木さんは話します。

「岩手県は震災前から広域医療過疎地でした。特に大槌町は、精神医療の整備が遅れていた地域のひとつ。震災が引き起こした心の不調はもろろんのこと、これまで見えていなかった、あるいはケアされていないかたうつ病、アルコール依存、認知症など多くの問題も顕在化しつつあり、そういった方への対応は、以前にも増して重要となってきました」

*プロボノ：各分野の専門家によるボランティア活動

には何もできない」と「支援する気持ち」を手放してしまうのではなく、「何かできるかもしれない」という視点を持つことで、まだまだ「復興支援の担い手」になれることが見つかるともいけません。



(左) 情報共有や遠隔地を結び研修会のツールとして、インターネットを使ったテレビ会議システムを活用している。(右) 研修会のような様子。





毎朝新鮮！生かきが食べられる かき小屋

かき満喫御膳 1,200円
※2日前までにご予約ください。

気仙川とつながる広田湾は、プランクトンが豊富でミネラルもたっぷり！かきは噛めばかむほど味がでてくる濃厚な味わい。かき満喫御膳は、蒸しがき5個にかきごはん、かき汁と小鉢がついた広田湾のかきをセットで満喫できます。毎朝水揚げされる新鮮なかきを1キロ1,000円から蒸しがきで楽しめるほか、48時間紫外線滅菌した生かきも味わえる(600円〜)。夏には岩がきも提供。クリーミーなかきグラタン(600円)も女性に大人気！

かき小屋 広田湾

- 岩手県陸前高田市小友町字両替21
- ☎090-8784-2114(予約専用)
- 営11:00〜19:00(L.O 18:00)
- 休火曜



「新鮮かきの産地直送販売も承ります！」とかき小屋広田湾店主藤田敦さん



かきグラタン(600円)は、濃厚なかきにチーズとクリームが相性抜群

手軽にかきや三陸の海鮮を 味わえる人気スポット！

海鮮焼き

海鮮焼きセット使用料 250円
※コンロ、蒸し用の鍋などがレンタルできます。

山田観光物産館ととの「海鮮焼き」は、かきやばたて、しゅうり貝などその日に採れた新鮮な海の幸を一年通して楽しめます。かきの旬には生がき、夏はほや、冬にはあわびが登場することも。コンロや鍋はレンタルできるので、購入した海鮮をその場で焼いて蒸して味わえます。「少しずついろんなものを」と欲張りにできるのも魅力。山田湾の海鮮を手軽に楽しめる人気のスポット！



④好きな海鮮を選んでその場で焼いて召し上がれ！
⑤山田観光物産館ととは「山田ベーカリー」などほかにも魅力がいっぱい。

山田観光物産館 とと

- 岩手県下閉伊郡山田町大沢2-19-1A棟
- ☎0193-77-4890
- 営9:00〜18:00 ※海鮮焼きL.O16:00(在庫なくなり次第終了)
- 休定休日/火曜、12/30〜1/2(正月休み)

三陸 うまいもん紀行

旬の味覚
かき小屋
編

かきの季節がやってきました！岩手の栄養豊富な海で育ったうまみたっぷりの旬のかきを蒸しがきやカキフライ、かきごはん…岩手三陸採れたてのかきをお腹いっぱい味わってみませんか？



かき食べ放題から浜焼きセットなど豊富なメニュー

殻つき焼しがき40分食べ放題

時間/11:00、12:00、13:00 ※完全予約制
料金/大人(中学生以上)3,000円、小人1,500円、幼児無料

採れたてのうまみたっぷり、大船渡のミルクィなかきを味わえる「かき食べ放題」は、蒸したてあつあつのかきをかきごはん、かき汁と一緒に楽しめます。かき剥きを自分でやるのも、かき小屋ならではの醍醐味。かき・ホタテ・鮭・たら・いか・しゅうり貝を蒸し焼きで楽しめる「6種浜焼きセット」(3,000円)も人気！かきのみそ煮がついたカキフライ定食(1,000円)もかきづくしを堪能できます。

漁師のかき小屋

- 岩手県大船渡市大船渡町字砂子前1-1
- ☎0192-26-4788
- 営11:00〜14:00(L.O 13:30)
- 休水曜



「豪快な蒸しがきを楽しみながら味わって」と漁師のかき小屋店長新沼一也さん



大船渡のミルクィなカキフライ定食(1,000円)

クセがなく食べやすい山田湾の蒸し焼きかき

蒸し焼しがき40分食べ放題

期間/H26年11月1日(土)〜H27年5月6日(水) ※完全予約制
制限時間/40分(かき蒸し時間10分含む)
料金/大人(中学生以上)2,500円、小学生1,500円(ライス付き)

海が綺麗な山田湾で育ったかきはクセがなく食べやすいと評判！40分間の食べ放題では蒸したてあつあつのかきを目の前でむいてもらえます。シンプルにしゅうゆとレモンで味わうもよし。調味料も持ち込み出来るので、もみじおろしやゆずこしょうなどオリジナルの味にして楽しむ人も。完全予約制なので2日前までにご予約ください！

三陸山田かき小屋

- 岩手県下閉伊郡山田町船越9-270
- ☎0193-84-3775(山田町観光協会9:00〜17:00 水曜休)
- 営11:00〜、12:00〜、13:00〜、14:00〜
- 休定休日/水曜、木曜(祝日は営業)、12/30〜1/5(正月休み)



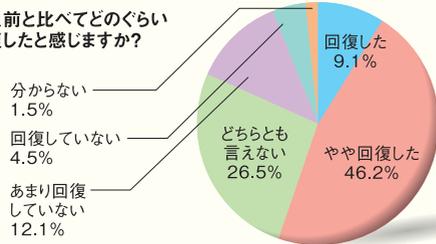
⑥大きな鉄板で豪快にどうぞ!!
⑦かきむきかき手という方にも安心のかき食べ放題。

「いわて復興ウォッチャー」平成26年第3回調査結果報告

■調査対象時期／平成26年8月 ■回収結果／有効回収率86.3% (132名／153名) ■調査項目／「被災者の生活の回復に対する実感」「地域経済の回復に対する実感」「災害に強い安全なまちづくりに対する実感」 ■回答者の属性(一部抜粋) ①性別／男性67.4%、女性32.6% ②年齢／39歳以下17.4%、40歳台26.5%、50歳台34.8%、60歳台以上21.2% ③住宅被害の有無／被災あり54.5%、被災なし43.2%、不明2.3%

問1 被災者の生活の回復に対する実感

①被災前と比べてどのぐらい回復したと感じますか？

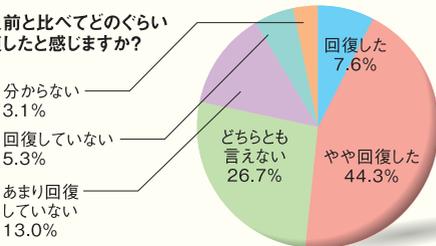


②直近の3ヶ月間でみると？

進んでいる	9.2%
やや進んでいる	42.0%
どちらとも言えない	28.2%
あまり進んでいない	16.0%
進んでいない	3.1%
分からない	1.5%

問2 地域経済の回復に対する実感

①被災前と比べてどのぐらい回復したと感じますか？

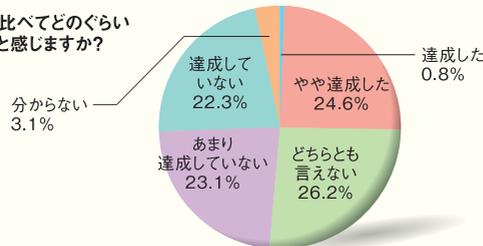


②直近の3ヶ月間でみると？

進んだ	7.6%
やや進んだ	41.2%
どちらとも言えない	32.1%
あまり進んでいない	12.2%
進んでいない	4.6%
分からない	2.3%

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

①被災前と比べてどのぐらい回復したと感じますか？



②直近の3ヶ月間でみると？

進んでいる	5.4%
やや進んでいる	32.3%
どちらとも言えない	24.6%
あまり進んでいない	21.5%
進んでいない	13.8%
分からない	2.3%

【参考】
 ●岩手県「東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」より抜粋
 (http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/022/898/201406_fukkou_jissi_keikaku_2ki.pdf) (H26.10.20アクセス)
 ●岩手県「いわて復興だより」第73号より抜粋 (http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/dayori/17254/029362.html) (H26.10.25アクセス)
 ●平成26年第3回「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告より抜粋 (https://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/chousa/watcher/001853.html) (H26.10.25アクセス)

「いわて復興ウォッチャー調査」で読み解く 岩手の復興

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的把握するため、沿岸12市町村にお住まいまたは就労されている方々を対象に「いわて復興ウォッチャー調査」を行っています。今号のstitchでは、平成26年第3回の調査結果報告から、被災地の方々が「感じている」復興の進捗を読み解きます。(取材協力/岩手県)

「復興感」をはかる
「いわて復興ウォッチャー調査」

「安全」の確保、「暮らし」の再建、「なりわい」の再生、という「3つの原則」に基づき復興に取り組む岩手県。2012年からは、復興の実感を定期的に把握するため、被災地域にお住まいまたは就労されている方々を対象に、復興感に関する調査「いわて復興ウォッチャー調査」を3ヶ月(四半期)に一度行っている。今回取り上げる「平成26年第3回調査」は、今年8月に実施。調査対象者は、生活の回復、地域経済の回復、災害に強い安全なまちづくりの3点において、被災前と比べてどのぐらい回復したか、そして、前回の調査からの3ヶ月間でどのぐらい進捗したと感じるかを回答(郵送によるやりとり)。今回の第3回調査では、153人の対象者のうち、約86%にあたる132名が回答した。

基盤づくりから本格復興へ
「復興の実感」はどうか変化する

岩手県がまとめた「第1期復興実施計画の取り組みの総括」をみると、計画の605の指標のうち、「安全」の確保の構成事業等で進捗に遅れが生じているものがあるものの、79.7%が進捗率80%を超えるなど、概ねの目標は達成できたようだ。しかし一方で「復興ウォッチャー調査」や意識調査の結果をみると、沿岸地域で暮らす県民は、その実感を十分に得られていない状況にある。県では、防潮堤の整備、災害公営住宅の建設といった今後ピークを迎える本格復興の主要な事業が、復興を実感できる程度までには進捗していないことや、応急仮設住宅での生活の長期化、復興まちづくりと合わせた商店街の再建が本格的に進んでいないことなどが背景にあるのでは、とみている。

「基盤復興期間」である「第

1期復興実施計画」が昨年度(平成25年度)で終わり、「本格復興期間」と位置づける「第2期復興実施計画」が今年度から始まっている。復興の基盤整備は進んだものの、「今後の生活」につながる部分が「目に見えない復興」として整っていないと感じることが「復興ウォッチャー調査」の結果からも見てとれる。この意味で、本格復興期間における各種取り組みの成果が、今後の調査結果、ひいては県民の復興感に大きな変化をもたらすかもしれない。

「復興ウォッチャー」調査方法

- 調査地区／沿岸12市町村
- 調査対象／150名程度 ※原則として 毎回同じ人を対象に調査を実施
- 対象者／被災地域に居住又は就労している方
- 調査時期(予定)／毎年2月、5月、8月、11月
- 調査方法／郵送によるアンケート調査

今回のStitch interviewに登場していたのは、盛岡市出身のシンガーソングライター・柳田久美子さん。高校在学中にデビューして、今年で13年。盛岡で暮らしていたころの思い出や、震災を経て芽生えてきた「歌う、伝えるということ」への変化を語ってもらいました。

Q 高校時代にインディーズデビューをした柳田さんですが、音楽を始めたのはいつからですか？

高校に入ってからなんです。聴くのは前から好きだったのですが、中学生ぐらいから「自分で演奏をしてみたい」と思うようになりました。それで、高校に入って吹奏楽部に入ったんです。譜面も読めないのに(笑)。それと同時にギターも始めました。

Q 自分で曲を作り始めたのは？

それから1年後ぐらい。周りの人に聴かせるのは恥ずかしいからこっそりと(笑)。けどせっかく作った曲の行き場がないというか、誰かに聴いても

らいたいという気持ちもあったので「知らない人にならないだろう」と、好きだった「ゆず」の所属事務所にデモテープを送ったんです。

Q いきなりですか！

今思うとすごいことしたなあと思います。音楽の世界に憧れはあったけど、オーディションに挑戦する度胸もなかったので、デモテープを送ることで気持ちを消化したかったというかな。まさか聴いてくれるとは思っていませんでした。事務所から連絡が来た時は「絶対だまされてる」と思いました(笑)。

Q そうして高校3年生の夏にインディーズデビュー。プロデューサーは曾我部恵一さん(サニーデイ・サービス)でした。

事務所を通じて曾我部さんがデモテープを聴いてくれて。でも私、当時はテレビやラジオで流れているような音楽しか聴いてなくて、失礼なことに曾我部さんやサニーデイ・サービスのことを知らなかったんです。音楽好き

柳田久美子

「シンガーソングライター」

いつかは盛岡に戻りたい。
でも「それは今じゃないよ」って
帰省のたびに励まされている気がします。

な人の間ですごく人気がある、ということも。もちろん、今は大好きですけどね。

Q バンドも組んでいたんですね。

「teens music festival」※1に出場したくて、ポーカーを募集していたバンドに加わって。自分の曲で参加して、全国大会まで進みました。そのとき初めて「人前で演奏する、歌う」経験をしてみ、それがすごく大きかったです。自分で作った曲が、(誰かの前で)歌うことで「音楽」になるんだなあ、ってことを実感したというか。

※10代を対象にしたヤマハ主催の音楽オーディション。1987年から2006年まで開催

Q その3年後にはメジャーデビューしますが、盛岡にはいつまで住んでいたのですか？

県内の短大に進学したので、卒業まで盛岡にいました。短大時代はほとんど音楽活動をしなかったのですが「やっぱり音楽をやりたい」と思い始めたときにちょうどメジャーデビューの話をいただいて、短大卒業後に上京

しました。

Qデビューして13年が経ち、自分のな
かの変化を感じますか？

そうですね。振り返ると、デビュー
をきっかけに音楽についての情報が急
激にだれれ込んできて、20代前半まで
はそれに溺れるというか、いろんなこ
とを試してパンパンになっていたなど
思います。今はそ
んな時期を経て、
素直に「シンプル
がいい」と思える
ようになったか
な。自分に必要な
ものをちゃんと選
べるようになった
というか。

Q頭でっかちにならず自分らしくいら
れる、というような？

はい。「自分らしさ」を信頼できる、
どんなアレンジを取り入れても自分の
歌の力は変わらないだろう、という
感覚。「自分の歌」というものを客観
視できるようにもなったかなと思いま

新幹線で帰ってくると、仙台を過ぎたあたりか
ら景色が変わりますよね。田んぼや畑がいちめ
んに広がって、空がバーンと現れる感じ。「来た
来た！」とワクワクします。

Q考え抜いて苦しんで出てきた、エッ
センスのような。
「歩き出そう」とか「まっすぐに前
を見つめて」とか、選んだ言葉はあり
きたりなものかもしれない。でも「やっ
ぱり、この言葉が必要だ」って確信で
きる。それは取って付けたものじゃな
く、考え抜いて出てきた言葉だから。
それまで私は、言葉を濁したり、遠回
しな表現を歌詞に使うことが多かった
のですが「伝えたいことをストレート
に」っていう、新たな一面を発見しま
した。私ってこんなふうにも歌えるん
だなーって。

す。昔は自分が歌っているの、恥ずか
しくて聴けなかったんですが。

Q現在インディーズで活動しています
が、「自分らしさ」を表現しやすい、と
うのはありますか？

メジャーのときは、環境的に恵まれ
ていたぶん求められることも多かった
ので、「応えなきゃ」っていう気負いが
ありました。「いい曲」は「お客さんが
楽しめる曲」であるべきなのに「売れ
るかどうか」とらわれてしまったり
……。だから、何をどうしたいかがで
きる今のほうが心地いいですね。今は
情報を発信するメディアもいろいろあ
りますし、メジャーとインディーズの
違いもあまりなくなってきたように思

Qいろんな意味で転機になった曲なん
ですね。
うん、とても大事な曲です。昨日の
ライブ（11月1日に盛岡市「九十九草」
で行われたライブ）でも歌ったのです
が、泣いている子もいましたね。それ
を見ると私もつられて泣きたくなっ
ちやう（笑）。「伝えたいことをシン
ブルに」という気持ちは、このあたりか
らより強くなったように思います。

Q現在、東京で音楽活動をしている柳
田さんにとって、盛岡はどんな存在だ
と感じますか？
新幹線で帰ってくると、仙台を過ぎ
たあたりから景色が変わりますよね。
田んぼや畑がいちめんに広がって、空
がバーンと現れる感じ。「来た来た！」
とワクワクします。ああ、岩手の景色
だ、って。「いつかは盛岡に戻りたい」
と考えているんですけど、帰省するた
び思うのは「戻ってくるのは今じゃな
い」って。まだ東京でできることがあ
る、だから頑張らなくて、ふるさとに励
まされている気がしています。

います。

Q「震災直後、曲が作れなくなった」
というインタビュアーを読みました。震
災をきっかけに変わったと思うことは
ありますか？
震災後、ミュージシャンを中心に
チャリティやアン普拉グド（電気を使
わない）でライブをしよう、という動
きがありました
が、私はそういう
気持ちになれませ
んでした。私が
歌っても、つらい
思いをしている人
たちはお腹を満た
したり、寒さをし
のいだりすることはできない、って
思っただけです。

Qもどかしさや無力感。わかります。
でも時間が経つにつれ「歌を作ろ
う」という気持ちが生まれてしまし
た。「みんなを元気にする歌を作りま
した！」というものではなく、シンガー
ソングライターとして「今感じている



柳田久美子 [やなぎだ・くみこ]

1983.11.5生まれ。岩手県盛岡市出身。高校3年生の夏、曾我部恵
一プロデュースのもと「8月の虹」でインディーズデビュー。2004年に『ス
ターライト』でメジャーデビュー。島田昌典、TSUTCHIE、高野勲、
つじあやの、银杏BOYZ村井&安孫子など様々なミュージシャンと作品
を生み出す。2008年に所属レコード会社と事務所を離れ、新たな活
動スタンスを作る。2011年にデビュー10周年を迎えSYNC TWICEより
「who ru?」を、2013年には2ndEP「C U」をリリース。また、ソ
ロと平行してThe Milky Tangerineのボーカルとしても活動中。やわ
らかな声で、今この瞬間を歌う。

柳田久美子オフィシャルウェブサイト
<http://www.yanagidakumiko.net/>



デザインの力で支援 人と人をつないで 地域の新たな魅力を生み出す

[盛岡市 絆・デザイン魅力創造事業]

「絆・デザイン魅力創造事業」とは、盛岡市緊急雇用創出事業として、岩手の復興と未来づくりを応援するもの。この採択を受け、2013年7月、NPO法人遠野まごころネットによる「もりおかクリエイティブ・ラボ」がスタートしました。



何度も何度も打ち合わせをしながら、納得のいくものになるまで。商品の魅力を育てます。

サイトの制作などデザインを通じてできる支援をするほか、PRの支援も行っています。募集対象は岩手県沿岸被災地域の法人、団体、個人。審査委員会の厳正な審査を経て、昨年度は4件の事業者を採択し支援を行いました。事業者を何度も訪問して現在の状況を聞きながら、デザイナーを決定、制作していきます。事業者との打ち合わせから問題点や課題を見つけて、時には提案をすることも。デザイン支援で商品価値を上げていくだけではなく、イベントやPR活動などのアドバイスも積極的にを行っています。最近では若いデザイナーから支援の申し出もあり、デザイナーと事業者をつなぐ架け橋としてもその役割を果たしています。利用した事業者からは「自分たちのこれからのビジョンを見つけるきっかけにもなっている」との声も。イベント参加や広報活動に精力的に乗り出す事業者も出てきました。

もりおかクリエイティブ・ラボ
(NPO法人遠野まごころネット盛岡事務所)

- 岩手県盛岡市本宮5丁目10-20
- 電話 019-613-8470
- E-MAIL morioka.creative.lab@gmail.com
- ウェブサイト <http://kizunadesign.sitemix.jp/>

できました!
「マタギ倶楽部」
「サフラン入りはちみつ」
「マタギの蜂蜜」商品ラベル

マタギ倶楽部は大槌や宮古の山里に住むマタギ仲間30名が集まって2013年8月に結成。大槌で採れるきのこ、はちみつ、川魚などを販売しています。「番紅茶」とも呼ばれる「大槌」の首都圏販売に向けたパッケージデザインを、何度も打ち合わせを重ね、黒と金を基調とした高級感あるラベルが完成。2014年12月から販売を始める予定です。



「プロに作ってもらったラベルは全然違う。販路やロゴマークなどもいろいろ考えてもらって助かっています」とマタギ倶楽部代表藤原勝志さん。

大槌マタギ倶楽部 <http://matagiclub.theshop.jp/>

現在は大分県竹田市産のサフランも使用しています。が、いずれは「オーグ大槌産」で大槌の特産品を目指しています。

できました!
「大槌ほたて養殖組合」
「岩手大槌ひょうたん島活ほたて」
イベントPR用のぼり旗

震災後にほたて養殖に携わる漁師で新たに大槌ほたて養殖組合を立ち上げ、養殖施設の復旧に取り組んできました。大槌の栄養豊富な海の中で育った甘みのあるほたてを厳選して、生きたまま産地直送で販売しています。独自販



「ここから勝負。大槌のほたてをもっとPRしたい」と副組合長越田秀一さん(右)。組合長斉藤さん(左)。

大槌ほたて養殖組合
<http://ootsuchi-hotate.jimdo.com/>

青とピンクののぼり旗はイベントでもお客様の集客に役かっています。「名前も覚えてもらえりし、反応もいい」と組合長の斉藤文雄さん。イベントのコーディネートもしながら、復興へ向けた一歩を後押しします。

Re:Stitch

～読者のみなさんから～

Stitch (ステッチ) に寄せられた声の一部をご紹介します。みなさん
のご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいます。
また、これからもご意見・ご感想よろしくお願ひします。

Stitch Interviewの小笠原満男選手の記事を読みました。単なるアスリートとしての感覚ではなく、一人の人間として復興の力になりたいという思いが痛ほど伝わってきました。同じ年の私も単なる寄付だけではなく、沿岸へ足を運び、現地の人と語り合ったり、食事をしたり物を買ったりすることで少しでも復興のお手伝いがしたいと考えさせられました。この気持ちを我々がずっと持ち続けることが大切なのでしょうね。非常に勉強になりました。

●30代 男性 / 会社員(一関市)

初めてStitchを読みました。「今、どうしてる? 改めて知りたい、復興のこと」を読んで、被災地の状態や状況の知らなかった部分を知ることができました。「三陸うまいもん紀行 完全食にチャレンジ大盛り編」はどれもとても美味しそう! ちょっと遠いですがぜひ、行って食べてみたいと思いました。いしがきミュージックフェスティバルのタイムテーブルも見やすかったので重宝しました。なかなか盛岡までお出かけすることはできないのですが、盛岡まで来たときはまたStitchを入手して読みたいと思います。これからも見やすく分かりやすく勉強にもなるStitchを作り続けてください。「一人ひとりの、思いのかけら。集めてつなげば、大きな未来。」とても良かったです。

●20代 女性(金ヶ崎町)

岩手へは会議等で過去三回訪れました。昨年は震災後、はじめて訪れ、胸がつかまる思いがしました。引率した子供たち250人の心にも響いてくれたと思います。明日盛岡の地を離れますが、2月にまた訪れます。次回はゆっくりノンビリ過ごしたいと思います。

●50代 女性 / 会社員(富山県)

毎号、Stitchを読んでいます。いつもとても充実した内容で気に入っています。今号の「今、どうしてる? 改めて知りたい、復興のこと」は興味深かったです。私は沿岸で被災し、盛岡に来たため、なかなか沿岸に帰ることもなく暮らしているの、沿岸の状況がわかる情報は有難いです。これからもこのような情報はこまめに掲載して行っていただきたいと思ひます。

●20代 女性 / 無職(盛岡市)

災害にあわれた方々に本当にお見舞いを申し上げます。自分がその身になったら本当にどうしていただろうか、と思っただけでも恐いです。盛岡市で復興応援フリーマガジン「ステッチ」を初めて見ましたが、内容も大変良いと思ひます。これからも応援できますように! 頑張ってます!

●70代 男性 / 無職(盛岡市)

パズルの表紙に目を惹かれて手に取りました。震災や復興のその後が気がかりだったのでいい機会が得られました。

●40代 女性 / パート(神奈川県)

復興に関するQ&A、全て読ませていただきました。私は京都在住なので本当のところ復興の進行具合は実感としてつかめていませんでした。ですが遠く離れていても、Q&Aを読むと少しだけですが実感がもてたように思ひます。中学生なんか、減ったとはいえ、まだまだ半数以上が仮設住宅で暮らしているなんて知りませんでした。いえ、知らないことだらけでした。反省です。でも観光の面でも活気を戻そうと頑張っておられる姿を紙面で拝見することができたり、大盛りデカ盛特集なんかがあって行ってみたいなあと思ひが一つ湧きました。次号も楽しみにしています。

●20代 女性 / パート(京都府)

全国にStitchを広めようプロジェクト!

Stitchの配布にボランティアで協力してくれるサポーター(個人、企業・団体)を随時募集しています。Stitchを全国に広めることで、少しでも震災の風化を防ぎたい! みなさんのご協力、お待ちしております。(年4回発行 / 6月、9月、12月、3月)。

A Stitch配布サポーター [一口10部から] 近所やお友達、グループなどにStitchを配布していただける個人。

B Stitchサポーターショップ・団体 [一口30部から] Stitchを設置していただけるお店、企業、団体。

※詳細は、HPまたはFacebookページ (<https://www.facebook.com/moriokastitch>) をご確認ください。

[募集方法] メール・はがきに ①氏名 (Bの場合は企業・団体と代表者名) ②住所 (郵便番号も) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤希望回数 ⑥(Bの場合) 設置予定の場所と方法 ⑦ご意見・ご感想を記入の上、ラヂオもりおか内「Stitch編集部」サポーター係へ宛てて応募。

[応募先・問い合わせ] stitch-supporter@morioka-fukkou.com ※郵送先住所は、左側のプレゼントページを参照

土と土とともに。
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言

豊かなくらし

様々な金融サービスや商品などを通して、当行の社会的使命でもある地域経済・産業の活性化を目指していきます。

豊かなしぜん

当行のコーポレートカラーである「みどり」に注目し、自然保護に取り組んでいきます。

豊かなこころ

協賛事業などを通じて、地域の人々、特に若い世代の「こころを育むなど、地域の活性化に取り組んでいきます。」

岩手銀行
<http://www.iwatebank.co.jp>

ステラモンテ クリスマス 限定オードブル ご予約締切 12月18日(木)

お渡し期間(日時はご確認ください) 12/20(土) ~ 25(木)

ステラモンテの人気メニューばかり

3,240円オードブル
5,400円オードブル

ご家族のパーティーに!

TEL: 019-624-7206
住所 盛岡市大慈寺町 10-34 (あさ開敷地内)
営業時間 11:30 ~ 15:00 / 17:30 ~ 22:00

みんながラブな コープ商品・産直品 がいっぱい!

県内13店舗!

COOP いわて生活協同組合

(本部) 〒020-0690 滝沢市土沢220番地3
TEL.019-687-1321代 <http://www.iwate.coop/>



MOSS MOSS 8周年企画 日高央 (THE STARBEMS) スペシャル・トーク&アコLIVE

2014年12月19日(金)

会場: MOSSビル4階カフェポルトボヌール
岩手県盛岡市大通2丁目8-14 4F

OPEN 18:00 / START 18:30
前売り 2000円 (当日2ドリンク込み) ※全自由

チケット発売中!

ローソン (L: 29894) / e+
ポルトボヌール店頭 / DISKNOTE 盛岡店頭
お問合せ: 019-652-7182 (盛岡 Club Change)

日高央 (THE STARBEMS)
1968年千葉県生まれ。BEAT CRUSADERSのボーカル&ギタートとして多くのロックファンの支持を集める中、2010年に解散。その後MONOBRIGHTへの加入や、ヒガト・オルとフェッドミュージックでAORIにチャレンジするなど多岐に渡る活動を展開。現在はTHE STARBEMSとして活動中。木村カエラ、GOING UNDER GROUND、磯田正文、BS 5ラビアーティストへの楽曲提供・プロデュースも行っている。

MOSS MOSSの最新情報はこちらから

HP [MOSS](http://www.moss-build.com/) 検索 <http://www.moss-build.com/>

Facebook [MOSS - facebook moss.morioka](https://www.facebook.com/moss.morioka)

